

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000705		
法人名	有限会社 グループホーム 花		
事業所名	グループホーム 花		
所在地	小樽市最上2丁目19番9号		
自己評価作成日	平成24年3月15日	評価結果市町村受理日	平成24年5月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広い土地を生かし、季節にあった花や畑で作った物の収穫祭。テラスで食事や日光浴、冬には雪明りと季節を通じ入居者の方と共に楽しく過ごしています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigoinfo-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172000705&amp;SCD=320">http://system.kaigoinfo-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172000705&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成24年3月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営者は高齢者福祉施設での介護経験から、より家庭的で人間らしく暮らせるような介護を実現したいとの熱い思いで、平成16年に1ユニットで開設しましたが、平成22年に現住所に移転し、新築2ユニットのホームとして継続し、8年目を迎えています。広大な敷地に建てられたホームは、天狗山の裾野に位置し、二階からは小樽の海を望み、自然豊かな環境にあります。「やれば出来る」の理念に沿って、職員は利用者に寄り添いながら、一人ひとりを支え、意欲を引き出す支援に取り組んでいます。いちご狩り、フリーマーケット、畑作り、雪明り、クリスマス会など、様々な外出支援やレクリエーションを提供し、利用者は生きがいを持って、喜怒哀楽を感じる生活を実現しています。運営者は、職員の質の向上と育成を図る為に、毎月担当職員が議題を決めて勉強会を開催しています。地域住民とは敬老会やフリーマーケットへの行事参加や、踊り、手芸、民謡、和紙作りのボランティアの受け入れなど、相互交流に努めながら、職員は、利用者が日々明るく、笑いに溢れた地域生活の継続に向けて支援しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各フロアーにホームの理念を貼りだし、「自分で出来る所は自分でする」「やれば出来る」の理念に基づいて支援を行っている。	利用者の人格を尊重し、自立に向けたケアサービス提供の具体的なイメージとして「やれば出来る」を盛り込んだ理念を作り上げています。職員は常に、地域住民と交流を図りながら、その人らしさを大切にした理念を共有し、実践に繋げています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	昨年の春から畑作りを始め、地域の方々にも協力をして頂きました。それから、野菜の生育状態を見にきたりと日常的な交流を行っている。	地域との関係は良好であり、町内会行事への参加は勿論、ホーム主催の「雪明り」には、中学生からワックスボールのプレゼントを受けたり、フリーマーケットにも多くの地域住民の参加を頂くなど、人々との相互交流に努めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームでの行事やフリーマーケットに参加をして頂き、認知症の方と交流することにより理解を深めてもらい、地域の中での生活ができるよう支援を行っている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの活動状況、利用者の方の日常生活への取り組み等の報告を行い、意見や提案を受け、サービスの向上に活かしている。運営推進会議は2カ月に1回行っている。	包括センター職員、町内会役員、近隣住民、家族の参加を得て、2ヵ月毎に開催しています。運営状況や活動、利用者の状況や日々の暮らし、行事案内などの報告や情報の共有を図りながら、意見や要望の汲み取りに努め、サービス向上に活かしています。	運営推進会議には、地域の理解と支援を得るために、幅広い立場や職種の異なる方々の参加を積極的に呼びかけると共に、ホームがより豊かに機能するよう、会議の充実と議題設定の取り組みを期待します。更に参加者及び家族への議事録配布も期待します。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からない点や確認等の連絡を積極的に取りあい、より良い協力関係を築いていくよう努めている。	運営推進会議には包括センターの職員に参加頂き、情報の共有を図っています。市の介護保険課や保護課とは、利用者個々の問題や実務処理などで、相談し助言を頂きながら、協働関係を築いています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当ホームでは身体拘束を行っていない。玄関の出入り口にはセンサーが付いているため、日中は施錠をしていない。職員会議等で研修を行い知識を高め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	虐待・身体拘束の弊害についてのマニュアルは、いつでも学習できる状態で整備されており、職員は月1回の合同会議にて学びを深めています。好ましくない言葉掛けなどに気付いた時は、申し送り時に事例を挙げて確認し、話し合い、拘束の無いケアに取り組んでいます。玄関は夜間のみ施錠しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議等により、虐待についての職員間の認識を共有し、虐待の防止に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援は、ケアプランに沿って行っている。成年後見制度は、利用者一人ひとりの必要性に応じ支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時等にホームの理念、ケアについて十分に説明を行い、その上で、ご本人やご家族に不安や疑問点を尋ね理解、納得して同意を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望、苦情がある時は、素早く対応をするようにし、反映させるように努めている。	来訪時には家族と積極的に関わり、意見や要望を聞き取り、職員は連絡ノートを活用し、情報の把握に努めています。面会者名簿にも意見要望欄を設けて、思いを表せる機会を確保しています。毎月発行の「花たより」ではホームでの暮らし振りを伝え、遠方の家族には、一人ひとりに手紙も添えて関係性を深めています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と会話を多く持つようにし、意見や提案を出しやすい環境づくりに努めている。職員から出た意見や提案は職員全体で話し合いを行い、反映をさせている。	運営者及び管理者は、日々の申し送りや毎月の合同会議などで、職員のケアに対する提案や業務などの要望を積極的に受け止め、運営に反映させています。職員間でコミュニケーションを図る機会も多く、運営者及び管理者との風通しも良く、気軽に話し合いが出来る体制を築いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	共に働き、職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう職場環境、条件の整備に努めている。また、職員から就業環境での意見が出やすい環境づくりに配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場や職員研修等で、職員個々のケアの実態と力量を見極め、アドバイスや個々にあった研修を受講させるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小樽ケアネットの会に参加し、そこで得たものを職員会議等で報告し、サービスの質を向上させていく取り組みを行っている。また、他のグループホームの学習会にも参加をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する前に、ご本人、ご家族と面会をし、ご本人の状況、状態を把握をする。困っていること、不安なこと、要望等にご本人が安心されるまで耳を傾け、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っていること、不安なこと、要望等がある場合は、時間を作り相談に応じている。そして、できる限り要望に副うようにし、お互いの信頼を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状況や状態を把握し、ご本人、ご家族が必要としている、その思いに副うケアを行うよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分で出来ることをやって頂き、ご本人がホームでの役割を持ち生活できるよう支援し、より良い関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話等でご本人の日常生活での様子や状態を密に報告し把握して頂いている。また、ご家族に連絡したいときは、橋渡しをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	入居前からかかっていたかかりつけ医や行きつけの美容室に行ったりし、関係が途切れないようにしている。また近所の人や友人が気楽に面会に来られるような環境づくりに努めている。	知人、友人の来訪の際には、お茶などで持て成し、居心地良く過ごせる支援に努めています。入居前からのかかりつけ医への受診や美容室、墓参りなどの外出には、家族の協力も得ながら、基本は職員が送迎を行い、関係継続の支援に取り組んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の間でもお互いに気遣いが見られ、出来ることを協力して行っている。他者との交流が難しい時には、職員が間に入り会話の出来る雰囲気を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要があれば、ご本人やご家族からの相談に応じ、アドバイスを行い、利用終了後も安心できるような支援に努めている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中からご本人の希望や意向を把握するように努めている。困難な場合は、ご家族から情報を頂いている。そして、ご本人の状況を考慮して希望、意向に副ったケアプランを作成している。	センター方式のアセスメントシートを作成し、情報収集に努めています。利用者の担当職員を中心に、意向を聞きながら、気付きノートを活用して、職員間で情報を共有し、利用者本位で検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との会話の中から生活歴、日々の暮らしの様子を知り、以前のサービス利用、ご家族との情報収集を行っている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活状況、状態を観察しご本人の出来ること、出来ないことの見極めを行い、利用者本人が有する力を発揮出来るように努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の要望を介護計画に反映させ、医療面、介護面等の情報を取り入れ現状に即した介護計画を作成している。	アセスメントシートを基に、気付きノートを活用しながら、利用者個々の担当職員はモニタリングを行い、サービス担当者会議にて話し合い、情報を共有し、利用者、家族の要望を反映した介護計画を作成しています。3ヵ月の定期見直しの他に、状況変化時は、随時見直しが行われています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中での変化を個別に記録をし、職員間での情報の共有や報告等をし、介護計画の見直しを行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の要望、意向を基に職員全体で話し合いをし、その時々生まれるニーズに対応できるよう支援を行っている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域社会、地域住民との交流を行いご自宅で生活していた時と変わらない豊かな暮らしを過ごしてもらえるような支援をしている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医には、ご家族や職員が通院支援を行い受診をしている。ホーム提携の医療機関からは、月2回の訪問診療を受けており、歯科診療については、必要に応じ往診で対応している。	利用者、家族の希望に添ったかかりつけ医の継続受診を行っています。基本的に家族対応となっていますが、職員も通院介助の支援を行っています。協力医療機関による月2回の訪問診療に加え、必要に応じて、歯科の往診体制も整っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の身体の変化や健康状態を看護師に相談し適切な指導を受けている。受診科目の違いはあるが月に1～2回の受診、往診がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や相談に努めている。ご本人の状況を報告し、ご家族の協力を得て病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当ホームでは、終末期ケアは行っていない。利用者が入居をする前に重度化した場合や終末期のあり方については、ご本人やご家族に十分な説明をし理解をして頂いた上で、同意書を交わしている。	ホームの現状として、看取りは行わず、医療機関などへの移行を検討しており、入居時に利用者、家族には、終末期のあり方について十分説明を行い、同意書を得ています。	ホームでの看取りへの対応が重視されている現状で、利用者や家族を支えるために、早い段階からホームの出来る具体的支援や方針を明文化し、利用者、家族のより安心・納得のいく、サービス利用が可能となる指針書の作成に期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法基礎講習を受講している。応急手当や初期の対応方法を社内研修等で行っている。また書面を作成し周知している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は消防署、地域住民の協力を得て、昼夜双方を想定して定期的実施している。また、防災確認表を作成し、1ヵ月1回定期的に確認をしている。	消防署の指導の下、昼夜を想定した避難訓練が年2回、地域住民の参加を頂き、実施しています。救急法基礎講習を受講し、応急手当や初期の対応方法を内部研修で学び、緊急時マニュアルも作成しています。防災確認表にて、定期点検も行っています。	利用者の安全確保や、避難誘導に於ける地域住民の具体的支援体制を築くと共に、緊急連絡簿にも地域住民の名前が登録できるよう、連携の強化を図ることを期待します。今後は自然災害の訓練も実施し、更なる防災強化への取り組みに期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重し、十分な配慮をもって対応をしている。利用者個人の記録、面会簿等も適切に管理をしている。	利用者の誇りや尊厳を尊重して、プライドを傷つけないよう、言葉掛けにも配慮して対応しています。記録などの個人情報の取り扱いについては、個人情報保護法に対応した取り組みが行われています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望の表出、自己決定の出来る雰囲気づくりをし、働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりが自由に日常を過ごし、ご本人のやりたいこと、やりたくないことの意味を尊重し、一人ひとりの希望に副った生活が過ごせるよう支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者一人ひとりが自分らしい服装をし、日々を過ごしている。また、行きつけの美容院がある方は、そこに行き身だしなみを整えたりとおしゃれが出来る支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が食べたいもの取り入れながら、食事に関する一連の作業は、利用者と職員が共に行っている。食事形態も一人ひとりに合わせ食べやすい大きさに切りゆっくと時間を掛け食事をしている。食事中は会話が出来る雰囲気づくりに努めている。	献立は利用者の希望を盛り込み、栄養のバランスや、一人ひとりの身体状況に合わせて作成しています。外食や行事食、出前なども取り入れ、食の喜びを工夫し、支援しています。食事の一連の作業は、利用者の得意分野や意向に配慮し、職員と共に行っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の摂取カロリーを1,500~1,600calを目安に献立を立てている。少食の利用者には少食で提供をし、月1回の体重測定を行い、体調のチェックを行っている。水分量は1日1,200mlを目安に摂っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き、義歯洗浄等の声掛けや見守りを利用者の口腔内の状況に応じたケアを行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりに合った排泄の対応を行い、夜間はおむつ対応でも、日中はリハビリパンツやパットの使用、トイレ誘導等により、失敗を減らす支援を行っている。	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握した上で、尊厳に配慮した、さりげない声掛けを行い支援しています。利用者の状況に合わせて、日中は、リハビリパンツやパットなどの衛生用品を使い分け、自立に向けた排泄支援に取り組んでいます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食事を取り入れ、水分も多く摂取して頂いている。利用者一人ひとりの体調に合わせて、運動も行っている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	朝のバイタルチェック時に利用者一人ひとりに希望を聞き、一人ひとりに副った支援を行っている。入浴剤を入れたり、リラックスして入浴して頂けるような支援をしている。	利用者の体調に配慮し、週2~3回を目安に入浴支援を行っていますが、毎日の入浴も可能です。入浴を拒む利用者には、無理強いせず言葉掛けやタイミングを工夫し、清潔保持に努めています。希望により、同性介助の支援にも努めています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状況や体調に応じ、利用者一人ひとり各自が自由に昼寝や休息をとっている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診、往診のファイルがあり、利用者一人ひとりの服薬や症状、状況の変化の確認に努めている。処方箋の内容等を確認できる薬局がある。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や調理等の家事の当番を決めて行っている。また、カラオケや買い物、地域行事に参加し、そこで好きなものを飲食したり気分転換ができる支援をしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩やカラオケ、買い物行っている。行事は利用者の希望も取り入れて計画をしている。昨年は、当ホームの畑での苗植え、収穫祭、海水浴、イチゴ狩り等職員の家族や地域住民の方と協力しながら出かけられるように支援をしています。	外出行事は利用者の希望に添って計画しています。花見やいちご狩り、海水浴、苗植え、ドライブなど、年間を通して戸外に出る支援に取り組み、家族や地域住民の参加も得ながら、気分転換を図っています。日常的には、散歩や買い物、カラオケと利用者の要望に応え、五感の刺激に取り組んでいます。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の数名は、個人の財布を所持している。希望があれば、職員が同行して行き買い物を楽しんでいる。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望時に電話を掛けることができる。電話の取次ぎも行っている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に音楽が流れ、穏やかに日常を過ごして頂けるようにしている。季節に応じ生花や飾りを変え、季節感を感じてもらえるようにしている。また壁には利用者と一緒に作った作品を飾り、居心地良く過ごして頂けるような空間づくりをしている。	居間には、両サイドに大きな窓があり、双方向から日差しが差し込み、明るく広々としています。浴室、玄関、トイレなどの衛生管理も徹底しています。共有空間には、四季の装飾や、生花、利用者の作品などが趣味良く飾られ、生活感や季節感を醸し出し、居心地良い場所としての工夫や配慮が伺えます。また、二階から眺める小樽の海は、利用者にとって故郷そのものであり、心和む光景です。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや憩いの場にて利用者同士、会話やテレビを觀賞したり、ソファーに座ったりと思思いに過ごされている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や仏壇を配置し、利用者が安心して居心地の良く過ごせるようになっている。	各居室には、クローゼットと飾り棚が備え付けられており、便利良く収納ができています。利用者は、使い慣れたベットや家具、鏡台、大切な仏壇を持ち込み、家族写真や絵なども飾り、安心と安らぎを感じる居室に作り上げています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗いや洗濯物の整理、掃除等を自主的に行ってもらいご本人の有する力を活かし安全で自立のした生活が送れるように支援を行っている。			